

生徒自らの考える力を育てるために、新聞はどのように活用出来るか

長野県青木村立青木中学校教諭（代表） 大澤 隆

1、実践の概要

本校は山間部に位置する全校170名足らずの小規模校であり、生徒たちは純朴で指示されたことは素直に実行できる反面、自ら考えたり、自ら判断する力の弱さが課題とされている。また、地域の特別養護老人福祉施設へのボランティア活動などにも積極的に取り組んでおり、新聞に紹介される事でその意欲も高まってきている。

N I E実践指定校1年目の本校では、N I Eの教育力の可能性を探ろうと長期的な具体目標を明確にしないまま、できる事から始めてその成果と反省のもとに発展させていこう考えた。職員会でも議題として取り上げてもらい、実践の方向など全職員が共通理解と協力の上で実践していく事にした。

(1) N I Eコーナーの設置

①全校N I Eコーナー 生徒校舎

- ・生徒がいつでも新聞を読む場として生徒校舎の1Fロビーに長机2つを置き、そこに配達される新聞六紙（朝日、毎日、読売、産経、日経、信毎）をおいた。
- ・前日の新聞も綴ってそこに置き、常時2日分はそこで読めるようにした。
- ・読み終わった新聞は、図書館に新聞社ごと、また月毎にまとめ、スクラップ活動で活用できるようにした。
- ・壁には、生徒に紹介したい記事や「N I Eニュース」を掲示した。

②学年・学級N I Eコーナー

- ・学年の廊下に学年N I Eコーナーを設け、その学年の生徒に紹介したい記事を掲示したり、N I E活動の成果を掲示した。

③職員N I Eコーナー

- ・職員控え室の一角にコーナーを設け、教育に関する記事を中心に掲示した。

(2) 教科学習での実践

- ・社会科、理科で新聞記事を活用した授業展開を試みた

(3) 学級で取り組むN I E

- ・3年B組のクラスとして、道徳、学級活動として実践を試みた。

(4) 記事のスクラップ

- ・係の教師が新聞記事をスクラップし、生徒に紹介したり、学級通信などで保護者にも新聞記事を紹介した。

2、新聞の配置と整理

(1) N I Eコーナーの管理

- ・各学級の社会科系の生徒を当番として、配達される新聞の設置、整理を任せた。
月毎に当番学年を決め、学年内では1週間交替で各学級の社会科係が整理に当たった。

(2) 新聞の管理

- ・図書館司書の先生の協力を得て、図書館内に1か月分の新聞を新聞社ごとに綴り、その月の新聞は図書館でいつでも読める環境を作った。

3、実践の内容

(1) 社会科でのNIE実践例

① 2学年 新聞スクラップ（夏休みの課題）

○休み中の新聞記事から戦争と平和に関する記事を切り抜きし、その記事について100字～200字程度のコメントを付ける。

[生徒の感想]

- ・今回、初めてじっくりと「平和」特に「核兵器」について知り、考えることができた。「核の恐ろしさ」と今の危機を知って、空で飛行機の音がするだけで不安になるほどでした。「平和」については、すごく難しいことがたくさんあるけれど、私も協力したいと強く思いました。いい勉強になって本当によかったです。
- ・「戦争は53年経った今でも記事になるほど色々色々なところで動いていた。」と記事を集めながら思った。怖かった。「平和」というものはすごく難しいものだと思う。だれもが幸せに暮らせるのが「平和」だと思うけど、そんなことが本当に実現するのだろうか。だけど、実現するかしないかは私たちの手にかかっていると思う。私たちが行動するかしないか、これからくる未来は変わっていくと思う。など、いろいろ考えさせてくれた。この課題は大変だったけどよいものだった。

<成果と課題>

- ・夏休み中の8月には、戦争に関する特集記事が掲載される事が多く、そのスクラップを課題としてみたが、生徒には好評で、生徒の平和への意識付けになると共に、2学期に学習予定の近現代史の単元の素地力になった。
- ・このスクラップを近現代史の授業でも積極的に活用すべきであったが、そこまでは位置付ける事ができず、来年度への課題となった。

② 新聞記事の紹介（公民の授業 5月～9月）

○授業の最初5分間を使って、政治面、経済面、社会面の中から記事を紹介し、自分の感想や意見を発表する。取り上げられた記事は、教室内に掲示した。

<取り上げられた記事>

- ・インドの核実験強行 ・参議院選挙 ・北朝鮮のミサイル発射問題 ・老人福祉問題
- ・環境、ゴミ問題 ・和歌山毒物カレー事件 ・死刑制度 ・来年度予算案 ・地方自治 など

<成果と課題>

- ・生徒に新聞を見る習慣を形成していくうえでは有効であった。また、授業の進度に合わせて生徒が新聞記事を紹介してくる事も多く、現在進行の問題として学習内容を理解していく補助になった。また、授業では9月で終わったが、その後学級活動でのNIEへと発展できた。
- ・紹介された記事の累積や整理など、単に教室内に掲示したのみで終わってしまい、もっと幅広く活用する方法もあったと思われる。

③ 「日本の社会保障制度」（公民の授業 9月3時間）

- 第1時 地域の特別養護老人福祉施設での介助体験を想起しながら、将来自分の両親が介護を必要とする状態になったら、介護をするかどうかとその時の課題について考える。
- 第2時 新聞記事（日本経済）から介護のかかえる具体的な課題を読み取り、それを基に話し合う。
- 第3時 日本の社会保障制度のしくみをまとめその課題を考える。

<成果と課題>

- ・「家で自分で介護をしたい」との思い持ちながらも、男子の多くは「介護はしたいが自分で面倒見きれないから施設に預ける」と考えた。一方女子の多くは、ヘルパーを活用しながらも自分で最後まで介護したいと考えた。介護していくうえでは「家の中のバリアフリー、仕事との両立子供の世話との両立、嫁ぎ先の家族との関係など」が問題ととらえられ、女性が介護の中心になっていく姿が浮き彫りになってきた。
そこで「介護の7割が女性」の新聞記事（日経）、介護体験の女性の投書記事（産経）を紹介して介護の抱える問題を深めた。
- ・たまたまやっていた単元に関係した記事その日に見つけ、当初の単元展開に予定していなかったものをそのまま活用したため、十分に生かしきれなかったのが残念であった。

④「商品券構想」の記事から国の財政問題や家計を考える（公民の授業 11月1時間）

- 各家から持ち寄った新聞記事を読んで、商品券構想の概要を調べる。
 - ・商品券構想の目的、・支給対象、支給金額、使用可能地域など
- 5～6人のグループで商品券を何に使うか話し合う。
 - ・祖父母、父親、母親、子供2人の役割を決めて話し合う。

<成果と課題>

- ・支給対象に生徒達も含まれる事から生徒の関心も高く、新聞から積極的に情報を得ようと何回も記事を読み返す姿が見られると共に、複数の新聞から情報を得ようとする姿も見られた。また、その後のグループ単位の話し合いも盛り上がり見せて、時間が足りなくなる程であった。
- ・ただ、教材としての価値を十分に吟味しないまま単元の中で挿入的に授業で扱った事もあって、既習事項と整合性に問題もあった。

(2) 道徳で取り組むNIE実践例 3年B組

○「私を語る4コママンガ」（2時間扱い）

（ねらい） 最近の自分の生活の1場面を4コママンガに表現することを通して、自らの生活を振り返ってさらに改善させようとする意欲を高める。

（展開） 第一時：1か月分の新聞の4コママンガを見て、オチやテーマを考える。

- ・読んだ4コママンガの中から1つを切り抜き、テーマやオチを解説する。

第二時：自分の生活の1場面を4コママンガに表現する。

- ・マンガの解説をつける

第一弾（10月） テーマ「私の生活から」

第2弾（11月下旬） テーマ「受験生、テスト、進路」

[生徒の感想]

- ・いつもの自分を思い出して書きました。
- ・結構楽しかった。絵で顔の表情を出すのが大変でした。・難しかったけど楽しかった。
- ・楽しい。言いたいことを4コマまとめるのは大変でした。
- ・書く内容はすぐに浮かんだけど、絵にして伝えるのが大変だった。
- ・何を書いたらいいのか分からなくて大変だった。新聞に書いてある4コママンガは毎日よく書けるなあと思った。

<成果と課題>

○全国大会（仙台大会）での秋保中学校での実践を参考に試みた。第一弾は、初めての試みで、テーマを決めだすのに生徒は苦労したようだが、思ったよりも楽しく取り組んだ。また、出来上がったマンガには、生徒の生活が現れており、生徒の日常生活を振り返らせたり、生徒の関心事や価値観をとらえる点では有効であった。一方、生徒は書いているうちに「オチ」やおかしさにとらわれてしまい、生活を見返し高めようとする意欲を高める段階まで到達しないものも多く、さらに後付けの指導が必要であった。

○第2弾は、テーマを決めて書かせてみたので、全体的には早くでき、生徒の受験生活の一端や生徒の進路に対する見方が表出された作品ができた。しかし、失敗談としては同じ内容のものが幾つか出てきており、指導の時間をもう少し丁寧に取るとさらに多様な作品になったかと思う。

○作品集にして第一弾と共に保護者にも配付したところ、好評であった。

{生徒の作品}



わんわん(わん)の(わん)



(3) 学級活動でのNIE実践例 3年B組

○実施時期 10月から2月

生徒が部活動を引退し、生徒会活動も2年生へと引き継いでいき学校生活が受験中心になっていくこの時期に、中学生活の学習のまとめとして位置付けようとした。

主に、学級活動の時間を使い、出張などでの自習の時間や進路個別相談の裏を使って実践させた。

○実施概要

①新聞記事の収集 (4～5時間) 10月～11月

・「環境問題」「人権問題」「10代の声」の3テーマを与え、班ごとに新聞を分担した。

・朝日、信濃毎日、毎日、読売、産経の5新聞の9月と10月分を読み、班の中で3テーマの分担を決め、テーマと関係すると思われる記事は切り取ってスクラップ化する。

・切り抜いた記事は、新聞ごとにスクラップブックにストックさせた。

②新聞記事の整理 (4～5時間) 11月～1月

・切り取った新聞記事の要点をルーズリーフにまとめる。

・要点をまとめたものをテーマごとに分類する。

③新聞記事の再構成と情報の伝達 (3～4時間) 1月～2月

・各班でテーマごとに壁新聞を作成する。(模造紙1枚程度)

・「NIEニュースNO2」を資料として、新聞の構成やタイトルの付け方などを全体学習した。

○[実践中の生徒の感想] NIEを始めてみて(11月中の生活記録から)

○今日、「学」でNIEをやりました。まだ10月分があまりなかったので、記事を探しに行きました。NIEをやってから少し新聞を見るようになりました。今までならTV欄ぐらいだったけど今は、たまあにだけ見るようになりました。(E子さん)

○先生がいなくて頑張ったよ。結構進んだ。私もNIEを始めてから結構新聞を見るようになりました。すごいわっ^{x12} テレビ欄だけじゃなくていろいろと……。これからも、もっと新聞をみるようにしたいです。(K子さん)

○NIEは何だか難しい。でも今までずっと新聞は、大人が読むものだと思っていたけど…よくあるじゃん、しぶ〜い人が新聞広げて顔をしかめているやつ。今は、別に大人だけの読みものじゃないって分かったし、10代の声とか探してみると面白いなあと思いました。まだまだ、長い文とかは意味が分からないし、旨くまとめたりできないけど、すこしずつできるようになればいいなと思います。新聞を広げて澄まして読んでいるなんて、ちょっとカッコイイように思いませんか？まあ、大変だけど…(Y子さん)

4、実践の感想と今後の課題

(1) [生徒の感想] NIE活動をやってきて(生徒の感想用紙から)

— 社会の授業できっかけ 新聞に触れる機会が増えた —

○NIEをやる前の私にとって、新聞とはただの紙でした。だから、新聞に触れる機会がとても少なく、身の回りで起こっていること、社会の事が全くといっていいほど分かりませんでした。そのせいか、青木中にNIEコーナーができていたにもかかわらず、新聞に触れようとしなかった私を変えたのが、社会の授業でした。なぜ、変えたのかというと、授業の初めに一人一つ新聞の記事を発表するというこんな小さなきっかけでした。そのおかげで、今の私にとっての新聞とは、身の回りのことや社会のことがたくさんつまっている紙です。だから、最近では新聞に触れる機会が増え、TV欄以外に社会面などをみるが多くなり、クラスでも新聞の切り抜きやまとめをしてみて、これからも続けていければいいなと思います。(EYさん)

—新聞を読む楽しさを知った—

- NIEをやるようになってから、今まで見ていた所とは違う部分の記事を読むようになりました。初めのうちは、僕の中で、新聞は字が難しく読みにくいという先入観があったので、なかなか読めませんでした。しかし、NIEの活動を行ってゆくにつれ、新聞を読む楽しさを知る事ができました。それに、新聞に関心を持てるようになりました。例えば、NIEの授業で、新聞の切り抜きをやり、それをまとめましたが、今までの僕だったら、たぶん余り書かなかったと思います。しかし、最近、記事を読むのが楽しくなったので、自分から進んでやるようになりました。これもNIE活動のおかげです。このような場を与えてくれてありがとう！（Y O君）

—新聞のすごさを知った—

- 新聞を切り抜くことをやり始めた頃は「何でこんなことしなくちゃいけないんだ？」と思って、仕方無くやるって感じでした。今もそう思うことがあるけど、新聞を読まなかった私には、いい勉強になったし、この頃すこしずつ新聞を読むようになったので、ちょっとやってよかったと思いました。新聞の切り抜きをやるようになって今、日本がどうなっているのか？（たぶんちょっとずつ）新聞を通して分かるようになってきました。今までは、TVのニュースなどを聞いていて分かっていたのでいいと思っていたけど、新聞は一つのことを細かく書いてあって、新聞がすごい事を改めて知り、今まで不要物と思っていたので済まなかったと思いました。（MHさん）

—また読みたくなり、情報の幅が広がった—

- 以前新聞は、スポーツとテレビの所しか見ませんでした。でも、NIEをやって政治の所やゴミ問題の所なども見るようになりました。その他にもいろいろな面を見るようになったので、世の中で何が起きているのか知れるようになりました。少し読むとまた読みたくなるのでとてもよかった。テレビでしかいろいろな情報を知ることはなかったけど、NIEをやると新聞を読むようになったので、たくさんの情報を知ったり、また、情報の幅が広がった。新聞は世の中の情報を知るにはとてもいいものだと思い、そして社会の事も分かるようになってよかった。新聞の切り抜きをして、面倒くさかったがその事に興味をもててよかった。（A I君）

—同世代の声から、いろんな考えに出会う—

- 私は主に10代の声を切り取っていたのですが、10代の人が見つかったこと、何かから分かったこと、困ったこと、嬉しかったこと、いろいろなことが書いてありました。今まで、身近な友達とでしか話していないので、新聞の中のいろいろな人の思っていることが分かって、なんか今起きていること、思いついたこと、私とは全然違うことを思っている人、人それぞれの考えがわかって面白いなあと思った。段々新聞って楽しいものなんじゃないかと思いつつあります。新聞好きになれるかもしれません。新聞から分かることってたくさんあるんじゃないかなと思いました。（鈴香さん）

ここに取り上げた以外にも、「家庭での話題になった」「『～すればいいのに』と思うようになった」「新しい自分を見つけられた」「すこしずつ回りのことが見えるようになった」といった感想もあり、NIEの教育力としての可能性を実感しました。

(2) 実践しての感想と課題

- まず、できそうな事から始め、継続して実践していく事で生徒が力をつける事が見えてきた。また、やっていくうちに、生徒が予想以上に興味を持ち意欲的に取り組む事に驚いた。
- 実践者自身が新聞を意識して読むようになり、6紙全部に目を通していく事を試みたが、時間的な余裕がなく、学校全体で取り組んでいける体制が必要だと感じた。
- 次年度は「総合的な学習」の試行が予定されており、「総合的な学習」の一環として位置付けられる見通しが出てきた。